

新翔 マンスル タイムズ

2015年11月

和歌山県立新翔高等学校

創造・愛郷・未来

われ熊野にあり



22年ぶりの全国大会出場で部の歴史を塗り替えた山本さん



全国射止めた 妃可留の矢

全国射止めた

10月23日、24日に本校弓道場で行われた平成27年度和歌山県高等学校弓道新人大会女子個人の部で本校2年山本妃可留(ひかる)さんが優勝、近畿大会、全国大会への出場が決定しました。日頃の地道な鍛錬の成果を遺憾なく発揮し、計11射で予選を通過した山本さんは、決勝で紀央館高校1年の生駒佳永さんとの息詰まる「射詰競射」を制して見事に優勝、女子個人戦参加77名の頂点に立ちました。また本校弓道部からは22年ぶりの全国大会出場という快挙を成し遂げました。山本さんは11月23日に兵庫県姫路市で開催される第24回近畿高校弓道選抜大会、ならびに12月24日~26日、栃木県宇都宮市で開催される第34回全国高校弓道選抜大会へと駒を進めます。近畿や全国の強豪達とハイレベルな射を競い合う中でさらなる活躍に期待したいと思います。見事に全国大会という金の矢を射止めた山本さんに、大会に向けての意気込みなどをまとめてもらいました。

○弓道をはじめたきっかけは？

一小学生の頃にテレビで見たことがあって、弓を引いている姿がカッコよくて自分もやってみたくて思ったからです。

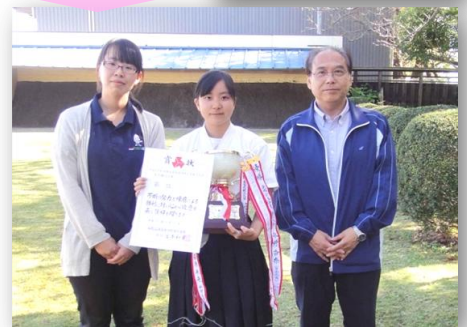
○弓道の楽しさ、魅力とは？

一弓道をやる前は、簡単そうに見えていたので、実際にやってみると難しかったです。最初はぜんぜん的中(あた)らなくて楽しくなかったんですが、毎日練習をして少しずつ中るようになって、弓道は楽しいと思いました。

○全国大会へ向けてのいきごみ、抱負などお願いします。

一あまり自信はないのですが、上位に入れるようにがんばります。次の大会では、後輩達にも優勝してもらいたいです。

弓道部顧問(近藤亜先生、山本先生)と共に記念の一枚。

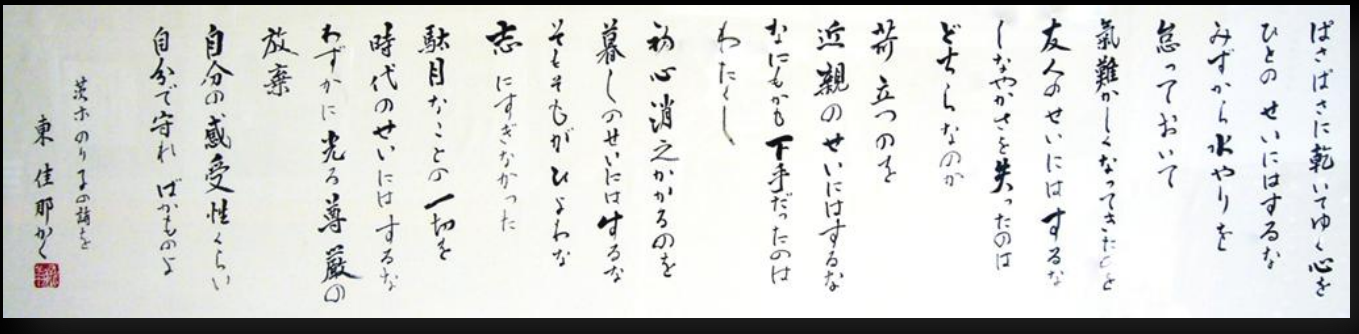


自分の感受性くらい 自分で守ればかものよ

11月の新翔ギャラリー

本館事務室前に今月展示されたのは3年1組・東佳那さん揮毫の書道作品。題材は日本を代表する女性詩人・茨木の子さんの詩「自分の感受性く

らい」です。東さんが筆に乗せたこの詩の厳しくも清らかに魂を揺さぶるメッセージを、ぜひ実際に鑑賞することで受け止めて下さい。



備える 補える 繋ぎ切る 防災スクール

10月29日(木)、本年度の和歌山県高校生防災スクールを本校にて実施しました。本校からは1年生150名、みくまの支援学校より生徒5名、地元佐野地区より本校学校評議員である前

田様はじめ10名、育友会より4名の参加をいただきました。全体会での開校式に続いて、参加者は以下の4班に分かれそれぞれが精力的に活動、訓練に取り組みました。



進行方向は足側で。

非常時のライフラインの起点

肘を伸ばして強く速く絶え間なく。

想定に想定を重ねた備えを。

袋の両サイドをカット。

今や備蓄食の定番α化米。

① 防災実技訓練

みくまの支援学校の生徒さんたちも交じて計約100名の生徒が6班に分かれ段ボールとクリップを用いてパーティション組立にチャレンジ。パーティションとはシンプルな災害避難時にプライバシーを保護するための大切な間仕切り。事後に撤収練習も行いました。その後はさらに3つの小グループに分かれ、応急手当班ではレシ袋を活用した三角巾作りを、心肺蘇生法班ではレシアンを用いた人工呼吸と胸骨圧迫を、搬送訓練班では竹竿と毛布を用いた簡易担架での搬送練習をそれぞれ行いました。



② 避難所運営訓練

佐野地区の方々、本校教員、生徒が交じて5グループに分かれ、ワークショップ形式で緊急避難時における避難所の運営をシミュレーション体験しました。次々と提示される避難者カードの情報をもとに、その状況や要望を即座に判断しつつ避難所である体育館内外の適切な場所へ避難者や支援物資等を配置したり対応したりする術を学びました。各班とも頭を悩ませながらも運営を疑似体験しながら、避難所運営において自分たちができることを具体的に知ることという目標を達成できたようです。



H27新期高校

防災スクール

④ ハザードマップ作成

本年度から新たに導入された班別ハザードマップ作成。総合学科棟・「悠久館」横の実習棟にて20名が5班に分かれ活動を行いました。新宮市をまず5地区に分け、それぞれ等高線の描かれた拡大白地図を用いて、7m級の津波による浸水区域を青ペンで、1.4m級による区域を赤ペンで色分けしつつ詳細なマップを作成。まとめとして各地区ごとの最適な避難場所を提示するといった班ごとの考察を発表しあいました。



③ 炊き出し・配膳訓練

育友会の皆様にお手伝いいただき、調理実習室にてアルファ化米の炊き出しを行いました。味はカレー、チキンライス、山菜おこわ、わかめごはんの4種類。防災スクール参加者分をパック詰めし、駐車場に設営したテントにて参加者にペットボトルのミネラル水とともに配付しました。生徒達はその後の昼休みに全員が配付されたアルファ化米をホームルーム教室で試食、ちなみに一番人気は今年もやっぱりカレー味でした。



マナーアップキャンペーン

11月17日、JR 紀伊佐野駅にて本年度2回目の「マナーアップキャンペーン」が実施され、本校から生徒会役員、バレーボール部、水泳部合わせて15人が参加し、JR職員、警察、青少年センター、地域の方々等と合同で駅を利用している通学生徒達に啓発用ポケットティッシュを配布しながら、駅構内の美化や乗車マナーの向上を元気づけ呼びかけました。生徒たち自身が最寄り駅としての佐野駅やJRの利用マナーの向上に向け取り組める貴重な機会として、このキャンペーンに今後も積極的に協力していきたいと思っております。



熊野を知る・学ぶ・守る・歩く 次世代育成事業「道普請・古道ウォーク」

10月28日(水)、地域文化系列2年生16名が、世界遺産センター主催の次世代育成事業「道普請」に参加しました。「道普請」とは道路の新設や改修を行うという意味ですが、平成16年に熊野古道が「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部として世界遺産に登録されて以来、次世代に良好な状態で資産を継承していくために同センターが推進している環境保全活動です。本校は同センターが「道普請」事業を開始した当初より継続してこの活動に毎年参加させてもらっています。

この日バスで本宮町の世界遺産センターに移動した一行は、まず熊野参詣道中辺路にて他団体さんと共同で約2トンの土入れ作業を行いました。その後は昼食をはさんで約1時間半の古道ウォークを行い、まとめとして同センターにおいて、本校でも教鞭を執られたことのある大濱先生を講師に、世界遺産入門講座を受講、歴史や意義などを学び世界遺産についての見識を深めました。熊野古道を自分たちの手で学び、自分たちの足で歩き、自分たちの手で守ることで、この身近にある貴重な遺産を次の世代に確実に残してゆかなければならないことを改めて体感できる一日となりました。

「税の作文」新宮税務署長賞表彰 3年1組 畑中 悠里さん

本年度募集の「税に関する高校生の作文」で、全497作品の中から本校3年1組畑中悠里さんが見事に「新宮税務署長賞」を受賞。11月19日には新宮税務署より土江稔生署長が来校され校長室にて表彰式が行われました。

作文で畑中さんは、なにげなく見ていたテレビのニュースから「児童扶養手当」の使われ方に注目する中で「税金」に対する自分の考え方が劇的に変化したエピソードをしっかりと文体と筆致で表現。表彰式では土江署長からも自分自身を振り返りつつしっかりと「税」について考察ができているとお褒めの言葉をいただきました。授賞式後の報道各社からのインタビューでは、「文芸部の活動や国語の授業を通してしっかりと文章表現を意識してきたのでそれが評価されてうれしいです。」

『税』についてはこれからも自分自身の問題として考えていきたいです」と笑顔で語っていました。以下に作品の全文を掲載します。



●表彰式後、土江新宮税務署長(左)、永石校長(右)とともに記念撮影。

「私と母子手当」

私は最近メディアで報道されている通り、削減できる税金や税金でまかなっている備品や無駄に広い公務員の社宅などはどんどん削減していくべきだと思っています。

式名は「児童扶養手当」という制度でした。内容を見てみると、厚生労働省が担当しているもので、両親が離婚したり、父親が死亡したりという条件の場合に四月、八月、十月のいずれかの月に最大で四万円円の援助を受けられるということが主な内容でした。

私の家庭は母と私と姉の三人暮らしです。母は美容師で生計を立ててくれていますが、だから私は、父がいなくても余裕がなくても、三人で人並みな暮らしができています。思っていました。そんな時に、あるニュースがテレビで流れているのをなにげなく見ていました。それは、子ども手当で、母子手当で削減すべきなのかというテーマの番組でした。私は初めて見る言葉に視線を向けて少し考えながら流れていくテレビのニュースを見ました。そこで私と同じ状況の人たちが取り上げられ、リポーターから「母子手当では必要だと思いませんか」と質問されて、自分の考えを言っていました。「母子手当」。その意味はぼんやりとわかるような言葉です。調べてみると、正



式名は「児童扶養手当」という制度を見てみると、厚生労働省が担当しているもので、両親が離婚したり、父親が死亡したりという条件の場合に四月、八月、十月のいずれかの月に最大で四万円円の援助を受けられるということが主な内容でした。

私の両親は離婚していません。だから、もしかしたら自分もこの制度を受けているのかもしれないと思いましたが、私はすぐに母に聞いてみると、「知らなかったの？」と驚かれました。私はそのままたテレビの前までぼつとしながら行ってまた流れるニュースを見ました。また母子手当の話

私の両親は離婚していません。だから、もしかしたら自分もこの制度を受けているのかもしれないと思いましたが、私はすぐに母に聞いてみると、「知らなかったの？」と驚かれました。私はそのままたテレビの前までぼつとしながら行ってまた流れるニュースを見ました。また母子手当の話

私の両親は離婚していません。だから、もしかしたら自分もこの制度を受けているのかもしれないと思いましたが、私はすぐに母に聞いてみると、「知らなかったの？」と驚かれました。私はそのままたテレビの前までぼつとしながら行ってまた流れるニュースを見ました。また母子手当の話



川原家出張展示 in しんぐら今昔まつり by 新翔高校建設技術部

しんぐら今昔まつりのイベントの一環として、本校建設技術部が本校所有の川原家を舟町の川原にて復元展示を行いました。このあたりはかつての川原町で、たびたび起こる洪水の時には家をたんで避難し、水が引くと家を建てるとい組み立て式の家屋に居住していました。時代の趨勢とともに川原家は消滅していましたが、伝統文化の継承のために本校では工業科の授業の教材として用いたり、建設技術部が文化祭で毎年校内に展示したりしています。



12月の行事予定 2 学期のビッグイベント、体育祭・文化祭も盛況のうちに終了。各自でしっかり切り替えを行い、締めくくりとしての学期末テストを力強く乗り切りましょう。

日	曜	行事	備考	日	曜	行事	備考
1	火			16	水	JR乗車マナー講座2限	
2	水			17	木	1年「産業社会と人間」講演5限	
3	木			18	金	午前中授業 (40分×4限)	
4	金			19	土		
5	土			20	日		
6	日			21	月	40分×6限 午後保護者面談①	
7	月			22	火	40分×6限 午後保護者面談② ●図書館一般開放日	
8	火			23	水	天皇誕生日	
9	水	LHRいじめアンケート ●図書館一般開放日		24	木	40分×3限、4限清掃・終業式・HR 午後保護者面談③	
10	木	LHR Q-Uテスト (1, 2年)	よみかたりポラントニア (午前)	25	金		
11	金		よみかたりポラントニア (午後)	26	土		
12	土			27	日		
13	日			28	月		
14	月			29	火		
15	火	1年薬物乱用防止講話5限		30	水		
				31	木		